

竹内さんのウクライナ便り

10月28日に行われる最高会議選挙に向け、ウクライナでは7月30日から選挙戦が行なわれていますが、日本と違ってポスターの掲示場所や枚数などに制限があるわけではなく、出所が必ずしも明確ではない多額の選挙資金がつき込まれて、TVでも各政党のコマーシャルが頻繁に流れています。9月初旬に行われた世論調査によれば、支持政党の第1位は与党の「地域党」(26.3%)、2位は実刑判決を受け収監中の前首相ティモシェンコ氏及び前内相ルツェンコ氏らが属する、野党のいくつかが統合して結成された「祖国党」(22.6%)、3位が国際的に著名なヘビー級ボクサーのクリチコ氏率いる「打撃党」(12.0%)、そして4位が「共産党」(10.8%)となっています。路傍に目立つ地域党の宣伝看板のスローガンの一つは、「安定を通じて繁栄へ」というものですが、現政権の作り出した、反対勢力を強引に押さえ込んだ上での「安定」をどれほどの人が望んでいるかが、この選挙の結果を左右するといえるでしょう。メディアに対する圧力もしばしば問題になっており、政府に対し批判的なあるTV局の銀行口座が、経済発展・貿易省により一時的に差し押さえられるという事件がありました。

今日9月28日には、「国際知る権利の日」にちなみ、都心の歩道で、昨年発効した「情報公開法[公共の情報の開示に関する法律]」を周知させることを目的とした写真展(賛同するジャーナリストたちのポートレートと彼らのメッセージを展示)が開かれているそうです。私はやたらに忙しくしている最中で、行けないのが残念ですが、ネットニュースサイトの「ウクライナの真実」で展示の内容を見ることができ、メッセージの一つは「僕たちの世代は、権力による情報の独占を撲滅しなければならない」というもの。ソ連時代の権力による情報の全面的な独占も、念頭に置かれているのですが、日本のメディア関係者はどれほどそのような危機感を持っているのでしょうか？

福島原発事故に関する情報は、ウクライナのメディアではほとんど流れなくなりました。し



<菜の花プロジェクト関係者との話し合い
(2012.09)>

かし、チェルノブイリ事故の被災者たちは、福島のものに真剣な関心を持ち続けています。私が8月中旬から2週間ほど一時帰国した際、やや驚いたのは、日本の新聞等では今に至るまで福島関連の記事がかなり掲載されているということでした。といっても、それを見てわかったのは、採られるべき対策が実質上進んでいないらしいということでしたが。しかし、このままではいけない、という意識は、それなりの数の人々に共有されていると思います。東京で泊めてもらったあるお宅では、猛暑にもかかわらずクーラーを使うことをやめたという話で、年長の友人は、日本のこれからを熱く深夜まで語りたいと気合いが入っていましたが、私は翌日早くに空港に行かねばならず残念でした。

「救援・中部」が支援を続けているジトーミル州ナロジチ地区で、2年半前から内部被曝の健康に与える影響の調査を続けている木村真三さんの所属する獨協医科大学が、「救援・中部」のナタネプロジェクトのカウンターパートでもあるジトーミル農業生態学大学のディードアップ准教授と学長を日本に招聘することになり、二本松市で講演が開かれるそうで、飯舘村でも視察が予定されています。私は彼らの通訳をするため、10月初旬の数日間また日本に行きま。福島県の土を踏むのは実は生まれて初めてで(数十年前、東京から鈍行列車で青森に行った時通過しただけ)、やや緊張しているのですが、出発の前日まで別件の通訳をキエフですることになっており、事前の準備をしているいとまがありません。(9月28日)